



初心忘るべからず

～そんな奴らに、俺の青春わかってたまるか～

校長 澤田 純一

「師走^{しわす}」とは12月の異称^{いしやう}ですが、「経^{きやう}をあげるために師僧^{しそう}が東西^はを馳せ走る月」であることが語源説になっています。最近の風説では、「学校の先生は、2学期の成績付けや入試に向けての調査書の用意、そして3学期の準備に追われる」ことから教師も走るほど忙しい月と誤って使われることもあります。実は師走^{しわす}の師は教師ではなくお坊さんのことだったのですね。ただし、本校の先生方は、皆さんのために全力で汗をかいていますので、あながち間違いではないのかもしれませんが。満身の力を込めて生徒の皆さんを指導している先生方を見ると、私も教師になった時の初心を思い出すとともに、この一年を振り返り気持ちも新たに年明けを迎えることが流儀^{りゆうぎ}と思うのです。

教師になった動機を話しましょう。かつて、警察官だったことはご承知の通りです。時は大学4年生の春、自由と平和を守るため、そして、市民の安全と命を守るため数ある職業の中から選んだのです。そこには、決意と誇りがありました。家族や友人も喜んでくれました。幸い採用試験に合格し、警察学校も卒業し、ある所轄^{しよかつ}に配属されました。初めて110番通報を受けて出動した時の胸の高まりと緊張感は今でも忘れることはできません。「必ず助けるから」「必ず犯人を捕まえるから」との決意と、「自分の身に何か襲い掛かるのではないか」との不安と恐怖がありました。そのような日々の中で葛藤^{かつとう}を抱きつつも、日々治安を守ることが自負心であったし、それが私を支えていたものだと思います。それでも、犯罪は一向に無くなりません。「犯罪を防ぐのも、犯罪から立ち直させるのも教育しかないのではないか。」自問自答しましたが、答えに時間はかかりませんでした。私は警察官を辞め再度大学に行き、教員免許を取得しました。そして、なんとか採用試験を経て教師となることができました。しかし、30年以上経過しますが記憶に強く刻まれたことがあります。それは、警察官を目指す時も教員を目指す時も、誇りを受けました。「やめたほうがいい。警察官は命が危険だ」「教師か、子ども相手の仕事だな」そんな時、いつも心でつぶやきます。「そんな奴らに、俺の青春わかってたまるか」と。そして、この思いが私の初心であり原動力なのです。現在は校長職^{しよくせきすいこう}として職責^{しよくせき}遂行^{すいこう}しています。学校とは、教師とは、授業とは等、一通り自分の答えはもっています。その考えに間違いがなかったか否かと一年を振り返ってみると、人間ですから失敗も反省もあります。しかし、卑怯なことはしなかったか、辛いことから逃げ出さなかったかなど根本的な生き方、考え方を省^{かえり}みると恥じることはありませんし、そのことについて今後も変わることはないと思います。

多くの方に、支えられた1年でした。そして、多くの方に感謝する1年でした。皆さんも一年を振り返り、新年を迎えてください。今年はどうのような年でしたか？大丈夫、来年もきっと良い年になりますよ。互いに初心を忘れず、時を重ねていきましょう。

保護者・地域の皆様、大変お世話になりました。良い年をお迎えください。衷心より感謝申し上げます。